

会 議 議 事 録

1	会議名	令和元年度第2回長岡市地方創生推進会議 幹事会
2	開催日時	令和元年12月24日(火) 午前10時から午前11時30分
3	開催場所	アオーレ長岡4階 大会議室
4	出席者名	<p>(委員)(敬称略)</p> <p>長岡商工会議所 事務局次長 長谷川 和明 長岡公共職業安定所 所長 佐藤 房雄 長岡技術科学大学 総務部 総務課 専門員 湯本 厚男 長岡工業高等専門学校 事務部長 大澤 和美 長岡造形大学 事務局長 久島 芳尚 長岡崇徳大学 学校法人悠久崇徳学園 常務理事 法人事務局長 佐藤 清 長岡大学 事務局長 品川 十英 商工組合中央金庫 長岡支店 支店長 宮宇地 開治 大光銀行 地域産業支援部 副部長 柏櫓 学 第四銀行 執行役員 長岡営業部長 堀 岳彦 長岡信用金庫 営業推進部長 鈴木 和明 新潟県信用組合 長岡支店 支店長 吉田 祐吉 新潟県信用組合 地方創生推進室 考査役 大平 良輔 日本政策金融公庫 長岡支店 支店長 横田 剛 北越銀行 ソリューション営業部 主任調査役 間野 雅之 連合新潟中越地域協議会 副議長 横澤 勝之 連合新潟中越地域協議会 事務局長 小林 守</p> <p>(事務局)</p> <p>長岡市</p> <p>地方創生推進部長 渡邊 則道 政策企画課 課長 大矢 芳彦 政策企画課 課長補佐 河上 雄一 政策企画課 係長 林 智和 政策企画課 主査 渡邊 美和子</p>
5	欠席者名	長岡地域商工会連合 事務局長 武士俣 利一

	長岡崇徳大学 事務局長 西川 岩雄 新潟日報社 長岡支社長 八木 浩幸
6 議事	(1) 人口ビジョンについて (資料1) (2) 次期長岡版総合戦略について (資料2)
7 報告	なし
8 審議結果の概要	・ 議事 (1)、(2) について、事務局から概要を説明し、意見交換が行われた。
9 審議の内容	
事務局・政策企画課 課長補佐	<p>皆さま、本日はお忙しいところをお集まりいただきまして、ありがとうございます。ただ今より、令和元年度第2回長岡市地方創生推進会議幹事会を開催いたします。</p> <p>本日の会議は公開となっております。後日ホームページ等で議事録を公開することを、あらかじめご承知おきいただきたいと思います。</p> <p>本日の幹事会出席者様につきましては、お手元の名簿に代えさせていただきますと思いますが、長岡崇徳大学の西川事務局長様はご欠席となっておりますので、ご了承いただきたいと思います。</p> <p>それでは、開会に当たりまして長岡市地方創生推進部長の渡邊よりごあいさつを申し上げます。</p>
渡邊・地方創生推進部長	<p>ご多忙のところをご出席いただきまして、ありがとうございます。</p> <p>次期長岡版総合戦略につきましては、戦略ごとに効果検証や数値目標、基本施策等の検討を進めてまいりました。本日はその素案についてご説明をさせていただきたいと思います。</p> <p>国のほうでは、先週の20日に「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」と第2期の総合戦略を閣議決定したところでございます。人口の長期展望については、第1期と大きく変更をしないで、2060年に約1億人の人口を確保するという内容になっております。これを受けまして、本市においても人口ビジョンにおいて大きな変更を加えない方針で検討を進めていきたいというふうに考えております。</p> <p>本日のご意見をいただきまして、国の第2期の内容も確認しながら、必要に応じて修正を速やかに行った後、パブリックコメント等を経て今年度中に策定をしたいと考えております。</p> <p>本日は皆さまから長岡市の地方創生に向けた忌憚のないご意見をいただきたいと思いますので、どうぞよろしく願います。</p> <p>以上でございます。</p>

事務局・政策企画課 課長補佐	<p>それでは、議事に移らせていただきます。初めに資料1、人口ビジョンについて、および資料2、次期長岡版総合戦略について、政策企画課の大矢よりご説明を申し上げます。</p>
事務局・政策企画課長	<p>(事務局から資料について説明)</p>
事務局・政策企画課 課長補佐	<p>ただいまの説明に対しまして、ご質問等ありましたらご発言いただきたいと思います。今後のスケジュールについては後ほど説明させていただきますと思いますが、ひとまず今ほどの説明に対しましてご質問がありましたらご発言いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>(質問なし)</p>
	<p>よろしかったでしょうか。</p> <p>そうしましたら、各機関からせっかくお集まりですので、各団体・機関の代表者の方からご意見・ご質問、何でも結構ですのでご発言いただきたいと思います。よろしく願いいたします。</p>
委員	<p>商工会議所は企業の集まる経済団体ですけれども、どこも共通して人手不足、人材確保というところが課題になっています。会社としても若者の地元定着の促進ということでいろんなことをやっているんですが、一番大事なのが、長岡にはいろんな企業があって、働く機会、あるいは働きがいがあるところがあるところをアピールし切れてないというのが課題となっています。特に、ここで言う「戦略1 若者定着」と「戦略4 働く」というところに関しては一緒になってやっていきたいなというふうに思っています。</p> <p>いかに魅力を届けるか、というのがちょっと難しいなというのは課題として感じていて、小中学生からやるべきだという話もあるんですけども、なかなかその世代に効果的に届ける戦略、例えば職場体験とか企業見学とかやっちはいるんでしょうけれども、果たしてそれがどの程度効果があるのかということで悩んでいるところです。</p> <p>あるいは高校生、そして大学生に企業の魅力を伝えるような動画を作ったりなどもやっていますが、どうやって届けばいいのか、どうやって若者の心に響くものを作ればいいのかというのを試行錯誤し</p>

	<p>ているところなので、その辺を皆さんのお力もお借りしながら、特に学生に近い学校関係者の方もたくさんいらっしゃるので、ご意見を聞いていい手段を見付けられればと思っていますので、よろしくお願いしたいと思います。</p>
事務局・政策企画課 課長補佐	<p>ありがとうございました。それでは、続きまして、よろしくお願いいたします。</p>
委員	<p>私どもも「戦略4 働く」あるいは「戦略1 若者定着」のところで長岡市等と連携しながら活動をしているところですが、まだまだこの取り組みが表立ってうまく定着してないところがあると思っています。</p> <p>やはりこれはすぐに効果が出るようなところじゃなくて、連携しながら継続した取り組みが重要だというふうに思いますので、なかなか難しいところもあるんですけども、地道にやっていくしかないのかなという気はしております。</p> <p>若者定着の数値目標のところの2つ目で、市内の大学・専門学校の市内就職率ということですが、もちろん市内の大学に進学される方も相当数いらっしゃると思いますが、県外に出ていく方も相当数いるのかというふうに思っています。</p> <p>そういう方にいかに戻ってきてもらえるかというのが大きなポイントになると思うので、なかなか数値目標を作るのは難しいとは思いますが、これだけだと数字としてはどうなのかなと、今ぱっと見た中ですが、感じるところでございます。</p> <p>以上です。</p>
事務局・政策企画課 課長補佐	<p>よろしくお願いします。</p>
委員	<p>長岡市のほうでもイノベーション推進ということで、4大学・1高専、専門学校等を交えていろんな若い方の定着というような形で人材育成、産業の活性化など、大学としてもできるだけ若い方が地元に残れるようにどうすればいいかというところで今考えております。</p> <p>技科大は高専の学生の受け入れが主でございますけれども、若い方が最近では起業をして地元で、というようなところも出始めております。すぐ地元に戻るというところは難しいかなとも思いますが、何年かしてまた長岡やその近辺に戻って、若い方が将来を見据え</p>

<p>事務局・政策企画 課 課長補佐 委員</p>	<p>た技術者として長岡地域のために貢献できるようなところに大学もお手伝いできればなど考えております。</p> <p>ありがとうございました。続きまして、よろしく願いいたします。</p> <p>今年からですけれども、地域に定着するためということで、技術協力会から、会員数150社ぐらいあるところですが、そこから50社ぐらいに来ていただいてインターンシップガイダンスをやりました。就職活動前に高専の4年生にインターンシップを必修化しましたので、その辺も含めて地元企業を中心ということで取り組んでいます。</p> <p>それから、企業ガイダンスも地元の企業だけの技術協力会という会があるので、そこに入っている企業だけでガイダンスを行い、企業がどういう活動をしているかというのを就職活動とは別で説明会を学校内で開いております。それから今では卒業生のUターン、Iターンをどういう形で仕組みとして作っていくかということを議論して、まもなくこれも始める形になっています。</p> <p>また、うちのほうでモンゴルに高等専門学校が3つできまして、今年の春に卒業生が出まして、日本語教育も受けているということもあり、そちらからかなり日本への就職希望があったので、技術協力会の長岡以外も含めて新潟県内にある150社にモンゴルの学生を受け入れてくださいということをお願いをしているところでございます。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>事務局・政策企画 課 課長補佐 委員</p>	<p>ありがとうございました。引き続きまして、よろしく願いいたします。</p> <p>私どもの大学は、平成6年に開学し、平成26年に長岡市が設置団体になり、公立大学として生まれ変わりました。その後、今年度の入学生も含めてですが、県外からの学生が約8割近くに、併せて女子学生比率が約8割にということで、大学で学ぶ学生たちの状況も変わりつつあります。</p> <p>そういったことも含めてなんです、先ほど大矢課長からお話がありました長岡市も長岡版イノベーションの推進をということで、これに力を注いでいくということでしたが、やはり私ども大学、教育機関もいわゆる大学版イノベーションの実施導入といったものを引き続き検討して、実施していかなきやならないんじゃないかということ</p>

<p>事務局・政策企画 課 課長補佐 委員</p>	<p>考えております。</p> <p>それから、資料2で説明のありました次期長岡版総合戦略の6つの戦略に関しまして、前回もこれを見させていただいたんですが、今日思ったのが、あくまでも教育現場としてですが、この6つの戦略全てがこれはぶつ切りでなくて関連性があり、流れがあるものなのかなというふうに感じました。</p> <p>一番はまず大学、それから高等専門学校を含めて「戦略3 教育」をこの長岡の地で受けると。ここから「戦略4 働く」、それから「戦略1 若者定着」と、要は長岡に住み続けて働くということにつながり、その後に「戦略2 子育て」につながってくるだろうと。最後に戦略6にあります長岡市ですと住んでいきたいという「安全・安心」、それから戦略5につながる「交流・連携」といったところが最後の落としどころになるんじゃないかなというふうに私自身は話を聞いて感じておりました。</p> <p>この6つの戦略に関して、やはり一連の流れを頭に入れた中での今後大学の学生指導を行っていかねばならないと思ったところです。</p> <p>引き続き、教育機関としては長岡市政策企画課を中心に、今日はその話で来たわけではないですが、包括連携協定の案件もありますので、それを含めてよく協議をしていければというふうに思っています。</p> <p>以上です。</p> <p>ありがとうございました。続きまして、お願いいたします。</p> <p>本来なら大学のほうの事務局長が来る予定だったんですが、私どもの連絡の手違いがございまして。今日は私のほうで専門学校を担当しておりますので、その辺も踏まえてちょっと長くなりますが述べさせていただきます。</p> <p>おかげさまで看護学部をスタートすることができましたということ、前回ご紹介させていただいたんですが、今回はこちらの戦略の6にもありますけれども、われわれが抱えている専門学校で介護福祉学科を持っておりますので、その関係で感じた状況を報告させていただきたいと思います。</p> <p>実は看護だけではなくて、今介護の現場、介護の状況がどうなっているかといいますと、ご承知のように長岡市内だけで見ても介護の人</p>
-----------------------------------	---

材を育てる専門学校が確か5つありますが、そこは全部定員割れなんです。それでこの間私が申し上げたのは、外国人材の活用です。留学生を海外から受け入れて、介護福祉士、国の政策も4月から介護や自動車整備などで外国人材を大量に採るほうに切り替えていっていますが、ちゃんと国家資格を取ってもらって日本人と同じ待遇で働いていただき、長期的な形で定住してもらおうということです。

実は私どもは中国やモンゴルやネパールから訪問者を迎えています。どういうことかということ、日本だけではなくて中国でいえばご承知のように一人っ子政策がやっと転換したようですが、4・2・1という課題があります。4人の元気なおじいちゃん、おばあちゃん、2人の親、それで1人の孫が6人を支えなくちゃいけないと、そういうことで高齢化が急激に押し寄せているということです。

先日訪問を受けたのは、上海でIT産業で財を成した方で、次は福祉だということで、上海のベッドタウンの昆山というところに3,000人規模の老人ホーム等を建てようという計画を持っていました。それでわれわれのほうのグループに対しては、介護は機械のような技術を覚えるだけじゃなくてやはり心が伴いますから、日本型の介護という形で介護の指導者を派遣してくれないかという依頼がありました。

ところが、われわれのほうは逆に、先ほど申しましたように定員割れであると。日本人の若い人をきちんとした介護、よく言うヘルパーだけではなく介護福祉士やケアマネジャーという形で、介護で指導できる人材に育てていくわけですが、その人材が足りていない状況だということです。

中国は日本語を勉強して、日本の介護技術を学んでいこうという状況です。モンゴルのほうもそういう形ですが、中国ははっきりと看護と介護の区別がついていない。モンゴルはましてや医療学校を出る、看護学校を出るといっていても看護と介護の区別がないのが現状です。

そういう教育を受けた人は、さらに日本に来て学んで一定期間働く、もしくは自国へ帰って押し寄せてくる高齢化に立ち向かっていこうということであるのに、日本のほうが先ほど申しましたように長岡といった場合、入居を希望される方がいっぱいいても、ケアする人材が追い付かないという現状になる。

そこで、私どもも外国人を受け入れようとするんですが、やっぱり壁があるんです。奨学金、要するに学費です。そこで今ちょっとお願いできないかというのは、今日本でもいわれています、日本人に対し

事務局・政策企画課長	<p>でも一人親の問題、要するにシングルマザーで子どもを育てながら働くというときに、介護の学校で学んで施設で指導する、発展的には海外に指導に行けるような、そういった人材のための奨学金が必要だと思います。一種のインバウンド的な奨学金のようなものが出て、それでシングルマザーは自分の子どもさんを育ててご自身が仕事を持つということができると思います。そういった特化した奨学金の考え方というのもぜひ、それがやはり長岡の人材が定着するために必要ではないかと考えます。</p> <p>そういう意味では外国人にはよく奨学金が適用できないというケースがあります。私たちは明日、明後日で東京、仙台の保証人を探しに行きます。外国人もサポートできる保証制度といいですか、保証金の面倒を見てくれて外国人が勉強につながるような体制を作ろうとしています。</p> <p>例えば長岡市で外国人の方をきちんと世話することで、外国人の働き過ぎなどの問題も出なくて、介護でも看護でもほかの技術でもそうですが、外国人の方が勉強して、技術・知識を身に付けて育って行って、それで海外、自国へ指導者として戻るとすごくいいと思うんですね。</p> <p>それと一つ言い忘れましたが、介護の話のときに出てきたのは、訪問してくれた方々が介護の備品を作っている長岡の企業を訪問したいということです。われわれのほうでもいろんな産業を含めた形で広がると思いますか、ボーダーレスで動けると良いと思います。それが長岡で起業をというところに、もしくは外国の方がきちっとした形でこちらで働いて雇用につながるのではないかと考えております。</p> <p>看護のほうもいろいろ現状は問題があるんですが、今回は介護のほうを長岡市、それぞれ関係する金融機関の方にもこの現実をご理解いただきたいと思って申し上げた次第です。長時間申し訳ありませんでした。</p> <p>ありがとうございました。介護、看護、それこそどこもそうですが、人手不足というのは本当に深刻なことだとは認識をしております。</p> <p>奨学金のお話ありがとうございましたのでそのことについてお話をさせていただきたいと思います。個人的な意見になるのかもしれませんが、大学さん、高専さんのほうは来年度4月1日から高等教育の無償化ということで国の制度に基づいてスタートするということがあります。私も今のお話については日本にとっての大きな問題だとは感じ</p>
------------	--

<p>事務局・政策企画 課 課長補佐 委員</p>	<p>ておりますので、国が本来きちっと制度を整えてやるべきだろうというふうには思っています。</p> <p>ただ一方で、各地域の諸事情もありますので、そういったところはなかなか明確な解答は難しいですけれども研究はさせていただきたいというふうに思っております。</p> <p>以上でございます。</p> <p>ありがとうございました。続きまして、よろしく願いいたします。</p> <p>本学は、経済系の大学で、4学年で約500人います。そのうちの十数%が外国人です。日本人の学生のうち98%は新潟県出身の学生です。日本人のうち就職する学生は、ほとんど95%以上が新潟県内に就職をいたします。今のところ十数%いる留学生が日本への就職を非常に望んでいます。</p> <p>高度外国人材活用ということで長岡市が国の指定を受けましたので、外国人定着について、これは特定技能制度とは別に大学で学んだ学生が定着できるような施策を取りたいということで、今いろんな方たちとお話をしながら長岡市さんが中心になってやってくれています。これについて非常に期待しています。</p> <p>どういうことかということ、今ほど課長から次期総合戦略のお話でありましたように、長岡に魅力をつくりたいという話をしていますが、外から来た人たち、特に外国から来た人たちにとって長岡市というのは非常に魅力のある街で、できればここで学んだのでここで仕事をしたい、だけど仕事が見つからないので半分以上は国に帰ってしまいます。あとの半分が進学と新潟県外に就職をしますが、このところ大学院に行ったあとで長岡に就職に戻ってしてくれる学生、留学生もおりますので、長岡については日本人も多分住みやすいんだと思います。うちに来ている外国人は中国、モンゴル、ベトナムですので、この3カ国から来ている学生にとってはとても長岡は住みやすいのだというふうに感じているんだと思います。</p> <p>それともう一つ、今の学生の親御さんが、多分ですがバブル前から、円高不況の時代から、バブルがあってバブルが崩壊して、そのときぐらいの人たちが子どもを育てているので、どうしても安心とか安定とかということに非常に保護者の方が敏感になっています。その保護者が育てた子どもたちはものすごく親の影響を受けていまして、冒険をするとか高度成長期がどういうものだったとかを知りません。</p>
-----------------------------------	--

私も就職の担当を昨年までやらせてもらっていましたが、お話をさせていただくとやはり保護者の意見が強くて、単純に言えば寄らば大樹の陰に行きたい。自分で冒険をして、この中小企業に入って自分の能力を使って営業をしてこの会社の売上げを伸ばしていきたいというふうに考える学生は、ゼロとは言いませんがゼロに近くなってきているのかなということについては危惧をしています。これは仕方ない気もしています。

それともう一つ、今ほど課長からお話がありました、来年から高等教育の無償化といいますか奨学金制度が文科省の関係で始まりますが、本学もご存じの方はおられると思いますけれども、長岡大学独自の奨学金ということで、主たる家計支持者の年収が700万以下の家庭から来られる学生さんについては国立並みの授業料にしようということで4年前から始めております。

当初計画していたのは学生の5割から6割ぐらいという話をしていたんですが、受給者については8割を超えています。

そうすると、確かに年収700万円が高いのか低いのかは別にしても、とてもそこまで行かない親御さんの数がかなり多く、世帯年収についてはある程度あるかもしれませんが、主たる家計支持者の年収自体が極端に少ない。

これは多分一人親世帯だと思うんですが、長岡の中にもそういう人たちがかなりの数増えてきて、教育にお金をかけられない人たちが増えているのかなと。その人たちが全員とは言いませんが、望む就職先というのは簡単に言えばつぶれない、安全で、この先親から見て10年、30年、40年、半世紀生き残っていく会社を選ぶ傾向にあるのでは、と思われる。これは当たり前なのかなと思っていますし、少し驚きかなとも思っています。

長岡に特徴のある製造業に勤めてもらえればその製造業はまだまだ伸びる可能性があるんだよといくら説明してもなかなか分かってもらえないので、この辺については私ども教育関係にいる人間がもう少し地元と密着して地元のことを調べて、もう少し学生、もしくは保護者の方に大丈夫だ、ここに行ってあなたの力を試せば将来はこうなるというふうに具体的な説明ができるようになっていかないとけないかと考えています。

以上です。

<p>事務局・政策企画 課長</p>	<p>先ほどハローワーク様からお話しいただきました件について、4大学・1高専さんのコメントが終わってからお話ししようかと思っていましたので、すみません、遅くなりました。</p> <p>私どもで数値目標を設定させていただいていて、市内就職率だけでは少し足りないんじゃないかと、裏を返せば転出者がまた戻ってくるような、そういった体制をというご質問といたしますかご意見なのかというふうに認識しております。</p> <p>総合戦略編の2ページのところでございますが、先ほど所長様からご説明いただきました数値目標が2つございまして、一つは市内の4大学・1高専・15専門学校の子どもの市内就職率を伸ばしますということと、もう一つ全体的な話で、若年層の転入者に対する転出超過率を、こちらのほうは抑制という言葉を使っておりますが、抑制していきましょうということで、転出超過であり出ていく数が多いのでそれを抑えようということです。</p> <p>なかなかU・Iターン率というのは私どもで目標掲げていくのは難しいところが実際のところあるんですけども、ご意見を踏まえましてそういったところも注視しながら、市内就職率と転出超過率の抑制の2つの目標プラスアルファで管理をさせていただければというふうに思っております。</p>
<p>事務局・政策企画 課 課長補佐 委員</p>	<p>引き続きまして、よろしく願いいたします。</p> <p>金融機関ですので、関係ある戦略という中では大体戦略4という部分なのかなと感じています。地域の経済や産業の発展ということをサポートする立場として、今お配りいただいた資料をざっと見させていただいたんですけども、定性目標、数値目標については掲げられているとおりのかと思いますが、関連する施策については、第一印象としてはもうちょっと具体的なアクションを施策として出せないのかなということを感じました。</p> <p>基本施策4-2については、特に金融機関については事業承継とか、域外への販売、そういったもののビジネスマッチングを含めた形で各金融機関が独自にやっております。基本施策では支援しますというような言葉が出ていますけれども、それをじゃあ具体的にどういう形で支援するのかも含めて記載されたほうがいいのかと感じました。</p> <p>例えば今各金融機関がやっているようなビジネスマッチングとか</p>

	<p>事業承継において、そういった情報を例えば長岡市がプラットフォーム化してデータベース化を行う中で連携機関と共有して支援につなげるとか、そういった考えもあるのかなと個人的には感じました。</p> <p>あとその他の基本施策の中にも環境整備を進めるとか職場環境づくりを促進しますというような文言に終始しているような感じであったので、その辺については具体的に今実施されていることもあるだろうし、今後考えてられることもあると思いますので、これから考えるのかもしれませんが、具体的なアクションを含んだ施策についても書かれたらどうかなというのを感じました。</p> <p>これは個人的な感想ですけれども、戦略の1、2において若者の定着や子育てというのは非常に重要なことなんです、それに加えて出生率を掲げていると思うんですけれども、この出生率について上げるためにじゃあどうするのかという部分で、基本施策1-3に「様々な形で男女が会う機会の提供や支援を行う」というふうに書かれていますけれども、まず近年において単身や未婚の率が上がっていて初婚の年齢がどんどん高まっている中で、婚活とかそういったものについて若者に環境を与えていって、そういったのを促進していくのも重要なのかなと感じたところです。</p> <p>以上です。</p>
<p>事務局・政策企画課長</p>	<p>ありがとうございました。事業をもう少し個別具体的に記載したほうがいいんじゃないかというご意見とっております。国の総合戦略もそうですが、あくまでも個別事業の前にある施策レベルということでご理解をいただければと思います。</p> <p>当然ながら、この主な施策の下には予算策定を経て個々の具体的な事業がぶら下がってくるということでご認識いただければと思います。</p> <p>それから出生率につきましては、おっしゃられるとおりになかなか2.07に持っていくのは難しいかなということで、ご紹介いただきました出会いの場を提供しながら市としても積極的に取り組んでいきたいというふうには思っております。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>事務局・政策企画課 課長補佐 委員</p>	<p>引き続きまして、お願いいたします。</p> <p>私のほうからは本当に一般的な話ですけれども、資料2の次期長岡</p>

<p>事務局・政策企画 課 課長補佐 委員</p>	<p>版総合戦略について、6つの戦略ということで、これは全て大事な項目だと認識しています。ただ実際に施策に取り組むに当たっては、限られた資源を有効に活用しないと駄目だと思いますので、特に力を入れるもの、力を入れないものはないのかもしれないですけども、選択と集中という言い方がいいですかね、そういうのも効果を見ながら行っていく必要があるかなというふうに思っています。</p> <p>金融機関としては、「戦略4 働く」というところが中心なのかと思えますけれども、私どもは長岡市に本店を置いている一企業でございますので、戦略に絡める部分というのは全てに絡んでいくことができると思っています。ただ各機関でできることというのは本当に限られているというか限界があると思いますので、ここにいる関係団体、連携を強化して総合戦略を進めていくことが必要かなと考えております。</p> <p>以上です。</p> <p>ありがとうございます。引き続きまして、よろしく願いいたします。</p> <p>まず目安として重要なのは人口だということで、資料1で人口ビジョンということで出ていますが、出生率については、これはもう国の2.07というのが一つの目安としてそこを狙うしかないという話で動いておられると思います。</p> <p>ただ2.07という合計特殊出生率ですが、女性1人が生涯に産む子供の人数というものだったと思います。2人以上産むのかという話になるわけで、現実的かというのと、どうなんでしょうか。これはあくまで前提ですからここでどうこう言う話ではないと思っています。問題は、その出生率を現在1.44という中で、女性にもお子さんを産める年齢層というのがあるわけであって、ご多分に漏れず高齢化というのは平均よりも早く、新潟県は全部そうでしょうけれども、早く進んでいるのではなかろうかと。そうするとここから先その層が減っていったらこの出生率が横ばい、横ばいから上がっていくにしても、本当にこの人数を確保できるでしょうかというのが素朴な疑問です。</p> <p>全国平均とそう大差がない中で仮に全国よりも高齢化が進んでいくとするならば、全国平均の数値、つまり国立社会保障・人口問題研究所の推定した数字を超えることはできないんじゃないでしょうかというのが疑問であり、ご意見を聞かせていただきたいところです。</p> <p>ではそれを埋めるのは社会増であるということになるでしょう</p>
-----------------------------------	--

<p>事務局・政策企画 課長</p>	<p>けれども、じゃあどの年齢の社会増を増やす、あるいはどの年齢の社会減を減らすのかというところがいまひとつ分かりません。社会増と言ったのは、言い方は悪いですが、例えば特老でも、老人ホームでも建てれば人数が増えますよねという話だと思うんです。でも、それでも雇用機会が増えるだろうしというような考え方もあるでしょう。</p> <p>それから、学生さんをもっといっぱい増やすということもあるでしょうし、外国の方とか留学生だとかでもどんどん連れてくるのも一つだと思います。そして一番いいのは、若い夫婦を連れてきてここで働いてもらって子どもをいっぱい産んでもらうというのが一番ですけれども。</p> <p>じゃあどれで人口目標に持っていくのかなというところで、これはみんなで考えるという話になると思うんですが、そのとおりだと思いますし、とても難しい問題だと思うんですけれども、じゃあどうやって長岡に子どもを産む層を持ってくるのかという話かなと思います。</p> <p>もう一つは、今までの議論の中で若者が社会減、流出ということで首都圏に出ていくというお話で、東京に行ったまま帰ってこないとか、確かにそうなんですが、一方で新潟市への転出を抑制するという、それは観点としてすごい大事なのかなと。東京には勝てないでしょうけれども、新潟だったら頑張れば勝てるんじゃないかとも思います。</p> <p>私のように新潟のほうが長岡より寒いと思っている人間もいるわけですが。例えば風が冷たくて嫌だわとか、長岡と新潟で違いを感じているところはあると思っています。それでも新潟に流れているというのは絶対あると思います。</p> <p>私は長岡生まれで新潟にずっと勤めていて、単身でこっちに帰ってきたので何となく良く分かるんですけども、親の方も東京にやるのは駄目だけれども新潟だったらしょうがないみたいなので容認している部分はあると思って。対新潟市というのを掘っていくのはなんか面白いとか手っ取り早いと思います。新潟にどれだけ流出しているのか分からないですけども、結構あるんじゃないかという気がします。</p> <p>以上です。</p> <p>ありがとうございました。資料でまだ調整中のところがあるんですけども、おっしゃられました人口階層別の人口推移というのも当然押さえてありまして、おっしゃられるとおり長岡市は全国と比べれば高齢化率は高いということはあるだろうとは思っています。</p>
------------------------	--

<p>委員</p>	<p>その中で社会増減に絡んできますけれども、やはり若い世代の方々の、市の全体の転出率の割合が、大体転出の総数のうちの若い世代の方々が9割ぐらいを占めていると。その層をターゲットにいろんな施策を推進する中で何とか長岡の良さを知っていただいで来ていただく、あるいは戻ってきていただくということをやっている中で、出生率も上がっていけばいいということで考えています。</p> <p>それから、新潟市の話が出ましたけれども、やはり長岡市は中越地域の中核地ということで、例えば柏崎市ですとか近隣の魚沼市、南魚沼市からの転入と転出を差し引くと転入のほうが多くなっています。</p> <p>一方でおっしゃられたとおり、新潟市への転出は転入よりもかなり多いということで、新潟市へ人材を提供している市だなということになっています。そこを改善することは一つの方策になってくるなとは思っています。貴重な意見、ありがとうございました。</p> <p>一ついいですか。先ほど日本人の学生が95%以上新潟県に勤めると言いましたけれども、新潟市と長岡市に勤める割合から行くと圧倒的に新潟市が多いです。新潟市・県央・長岡市の順です。割合で行くと7・2・1ぐらいです。学生については長岡地域出身は5割近くになりますので、そのうち新潟へ出ていく確率が非常に高いというのは、今ほどお話しになったのは事実だと思います。</p>
<p>事務局・政策企画課 課長補佐 委員</p>	<p>ありがとうございました。続きまして、お願いいたします。</p> <p>私もこの会に今回初めて参加させていただいております、6つの戦略は確かに全て関連がありますし、全て重要なことだとは思っております。</p> <p>その中でまず「戦略1 若者定着」というところですがけれども、数値目標と転出者の抑制だとか市内の就職率の改善というところは挙がっておりますけれども、東京にこちらから出ていっている人とかUターン、Iターン、そういった比率がどういふふうになるのかなというところも一つ課題じゃないかなと思います。</p> <p>そういうUターン、Iターンをして来る人たちというのは長岡にどういふ魅力を感じて来ているのか、それとも親御さんたちの要望で長岡に来ているのかというところの根底は分からないですけれども。学生の就職を長岡ですするというのももちろん大事ですがけれども、やはり若者たちのUターン、Iターンというところをどういふふう具体的に</p>

に推進していくのかなというところがこれからの課題じゃないかと思っております。

子育てにつきましても、やはり若者が増えてくれば当然子育ての世帯が増えるというところなんですけれども、どちらが先、後でもないですが、やはり子どもが育てやすいという環境がアピールできることによって、長岡で例えば起業してみようかなとか、そういった若者も増えるかもしれません。

今、起業・創業というところでどこの金融機関も創業支援をやっておりますので、創業につきましても今の IT 社会でございますので、東京、新潟に限らず長岡でも十分いろんなことが対応できるんじゃないかと思っております。そういうことにつきましても IT のセミナーだとかは長岡市さんでもやっておりますし、金融機関だとかいろんなところでやっているの、その辺をもっと積極的に推進していくところじゃないでしょうか。

「働く」につきましても、金融機関として一番携われるのはそのところだと思うんですけども、先ほども述べましたとおり創業支援だとか事業承継ですね。全国的にも中小企業というのは全体の7割、8割が中小企業になりまして、そこはやっぱり高齢化ということもございまして、要は働く環境が創出されていくというところもあるので、その辺の事業承継についてももっともつとわれわれ金融機関も含め市としても積極的に取り組んでいかなければならないところだと思います。

あと「交流・連携」なんですけれども、やはり長岡の魅力というところは非常に多いかと思うんです。皆さまそれぞれがいろんな魅力を感じておりますし、それについてもいろんな発信はされておるかと思えます。ただやはり新潟県、特に長岡は、アピールがちょっとあまりうまくないといえますか、雪国でじっとこらえて辛抱しているという関係もありまして、もっともつと観光的なもの、行ってみたい長岡というところをアピールできるようなものが発信できればと思っております。

今回は、次期長岡版の総合戦略ということで、前回の長岡版の総合戦略について、当然良かった点、悪かった点というのはあろうかと思えますけれども、それを踏まえた中での次期の戦略ということだと思いますので、今後ともいろんな意味で長岡信用金庫としても関わっていきたいと思います。今後ともよろしくお願ひしたいと思えます。

私のほうは以上でございます。

事務局・政策企画
課 課長補佐
委員

ありがとうございます。引き続きまして、お願いいたします。

今ほどのお話の中におきまして、総合戦略の中ですべからく数値目標を設定したというところは分かりやすく非常によろしいのではないかとこのところでございます。ただ数値目標を設定したからには、その部分に到達するのは非常に大変かなというところを考えてございます。

それで、今ほど来、金融機関の皆さんのほうからお話があったものですから、私からなかなか言うこともないですけれども、やっぱり「戦略4 働く」というところは手前どものほうでお手伝いを一番できる部分であります。

手前どものほうも中小零細企業を対象として活動してございますので、ここの起業・創業の件数だとか事業承継だとか、今ほど来の話じゃないですけれども、その部分につきまして細かい施策もあるかと思えますけれども、いろんな部分の中におきまして補助金とかそういう部分を充実させた中において、起業支援というところを進めたらいいんじゃないかと思っております。

廃業率が非常に高くて起業のほうは半分というような統計データも出てございますので、そんな意味の中においても細かく織り込んだほうがよろしいんじゃないかなと思っております。

それと人口減少の中で子育て支援という項目がございますけれども、やっぱり共働きの世帯が多いという形になりますので、そういう方たちの中には高校の授業料の無償化という話もございましたけれども、保育園とかそういう小さい子どもがいる共働き世帯の支援をするような金銭的な部分の補助金を、細かく拡充したほうがよろしいんじゃないかと思っております。

それから、私は長岡の出身じゃないものですから、長岡は非常に雪が多いと思いました。その辺も踏まえて住宅の関係につきましても長岡はやっぱり雪が降りますので、雪に対する設備というのは雪の降らない地域よりも費用がかかるということだと思います。

長岡に住みたいが雪が嫌だという方もいらっしゃるかと思いますので、雪の部分を克服するような形の、例えば融雪システムだとかそういう形で何か対策を打ったりする方法もあるのではと思っております。

以上でございます。

事務局・政策企画
課 課長補佐
委員

ありがとうございました。続きまして、よろしく願いいたします。

私はちょっと1点質問させていただいて、1点ご提案させていただきたいです。まず政策的な金融機関でございますので、やっぱり「戦略4 働く」というところが一番関与度が強いと思います。9ページの戦略4の数値目標が「起業・創業件数を増やします」とありますけれども、起業した件数が平成30年度は30件ということですが、これは実態に即していますか、というのがお聞きしたいです。

これは起業支援センターながおかさんで支援をした起業数だと思うんですけども、多分長岡市全体で見ればもっとあるんじゃないでしょうか。総合戦略に載せるのであれば起業支援センターながおかさんが取り扱った件数だけを公表するというのはちょっと違うんじゃないかなとも個人的には思います。

実は私どもの長岡支店で、年間創業融資件数というのは中越地区で大体50件です。長岡市でどのぐらいかという正確な数値は把握しておりませんが、多分20件から25件あると思います。そうなりますと、やはりこれは違うんじゃないかなと思います。

長岡で一生懸命起業・創業していただくということをちゃんとやるのであれば、実態の数字をしっかりと把握をして載せていただいたほうがいいんじゃないでしょうか。例えば新設の法人の件数とか、あとは税務署さんのほうの開業届なんかを見れば把握できるんじゃないかなと思います。実際はもっと多いと思います。

私どもは全国で2万6,000から2万8,000企業の創業融資を年間にさせていただいているんですけども、長岡市の中で例えば20～25件ぐらいの創業融資の件数が多いか少ないかというのは別にして、個人的には非常に少ないなと感じています。おそらく40件から50件ぐらいあってもいい地域の可能性があると思います。そういう意味でもぜひもうちょっと数値をきちんと把握をしていただいて載せていただくのがいいかなと思います。

もう一つはご提案ですけども、私どもは2013年度から高校生にビジネスプランを作って発表していただいて、最終的に1月に東京大学のほうでファイナリストを決めるような高校生ビジネスプラン・グランプリというイベントを開催しております。応募総数につきましては全国で400校ぐらい、大体4,000件ぐらい集まります。残念ながら今年は長岡市の高校からエントリーをしていただくところはございませ

	<p>んでした。昨年は長岡工業高校さんのほうでエントリーをしていただきました。</p> <p>やはり起業・創業をどう進めていくかということを考えると、10年、15年計画でやらないとできないことです。私どもも創業融資のご相談はたくさんいただきますが、実はビジネスプランができない、資金計画が立てられないというのは、これは結構致命的です。大人になってからだとなかなかできないのかなと思います。そういう意味では例えば小学校、中学校、高校、大学とレベルアップをしていって起業・創業の教育をしていくというのをぜひ長岡市としても検討していただきたい。</p> <p>そういう意味では私どもが開催しております高校生のビジネスプラン・グランプリというのをぜひ活用していただいて、長岡市内の高校の生徒さん、これはチームでできます。ただ顧問の先生のご負担がちょっと重いということでなかなか皆さんエントリーに消極的なところもあると思うんですけれども、そういうところをいわゆる総合戦略には載せないにしてもアクションプランの一つとして活用していただくのも一つの手なんじゃないかと思います。今日資料をお持ちしておりますので、後ほどお渡しさせていただきますので、ぜひ参考にしていただければと思います。</p> <p>以上です。</p>
<p>事務局・政策企画課長</p>	<p>ありがとうございました。起業・創業の件数につきましては、再度確認させていただきたいと思います。ありがとうございました。</p> <p>それから、ビジネスプラン・グランプリは、先ほどもございましたけれども、長岡市と長岡工業高校で協定を結びまして、連携をしながらやっていこうということで、そういった取り組みを進めさせていただいております。また今後も引き続き連携をしながら進めさせていただければと思っております。ありがとうございました。</p>
<p>事務局・政策企画課 課長補佐 委員</p>	<p>ありがとうございました。続きまして、よろしく願いいたします。</p> <p>もう金融機関の皆さまがおっしゃったとおりでございまして、私どもの付け加えることは特にございませんが、やはり金融機関としては「戦略4 働く」、それから「戦略1 若者定着」というところでお手伝いできるのではないかと考えております。</p> <p>起業・創業のところですが、やはり数値目標41件はちょっと</p>

<p>事務局・政策企画 課 課長補佐 委員</p>	<p>弱いのではないかなと実は思っていたところでございまして、そこら辺の実数を踏まえた数値目標が必要ではないかと思えます。</p> <p>それから起業・創業の次としては、「成長」というステージがあるかと思えます。次の数値目標で地域経済牽引事業計画の承認件数と出ているんですけども、やはり起業・創業した後の成長支援の部分を強化していただければというふうに感じました。企業が創業して成長すれば雇用が生まれます。それによって人が長岡市に流れてくるという視点ですね。そこを見ていただきたいと思えます。</p> <p>それと「戦略1 若者定着」の部分で、新潟県内の大学全体で見ますと4割の学生が県外に流出しているという実態がございまして。先ほど県内に就職するのが9割以上ということでお話を伺いましたけれども、その中で毎年、「新潟での企業理念と経営戦略」と題しまして、新潟大学と連携しまして企業の代表者さまから直接学生にこういう企業があるんだよという学外講義を行っております。今年も長岡市の朝日酒造様、それから岩塚製菓様から講師になっていただきまして年明けに行く予定でございまして。</p> <p>やはり学生が県内にとどまらない理由の一つとして、企業を知らないという部分があるかと思えますので、そこについて施策1-3、1-4になるかと思えますが、その具体的な策として学生に直接訴えかけるという部分で何かしら取り組んでいただければと思えます。</p> <p>以上でございまして。</p> <p>ありがとうございました。それでは最後に、お願いいたします。</p> <p>私どもは労働団体でありますので、働くことというところで、働き方改革ということで長岡市さんからもそのような施策に取り組んでいただきましてありがとうございました。その結果といたしますか、働き方改革はだいぶ浸透もしてきていまして、長時間労働の是正とかいうことでだいぶ残業時間のほうも圧縮をされている職場が多くなっています。そういった面ではいいですが、まだ収入の面では、今までどうしても残業代込の収入で考えていた部分が残業代の部分の収入が減ることによって生活が苦しくなるといいますか、そういった面も気になっているところであります。</p> <p>そういった意味で生産性の向上ということも一つの目標だと思いますので、生産性が上がった分はきちり賃金のほうに反映できるようにということで、私どももこれからの取組を行っていきたいという</p>
-----------------------------------	--

ふうに思っています。

地方創生の関係で行きますと、私どもの賃金の面での都市部との格差といったものは厳然としてあるわけでありますので、そういったところも含めて是正をしていく。特に最低賃金についても差が歴然としてあるわけですので、そういったところの格差もなくす、このような取り組みも私どももしていきたいと思ひますし、そういった観点からもまたさまざまな取り組みをお願いしたいというふうに思っています。

働き方改革のもう一つ、労働時間が減った分その分の余暇時間といひますか、自由に使える時間が増えたという中で、若者の中で空いた時間に何をやっていいか分からないと、もっと残業したほうがいいのにな、という話もあります。そういった空いた時間をぜひ地域の取り組みでありますとかそういったものに向けていくことが必要です。

あるいは副業ということ、ダブルワークとしての経済的な面ではなく自分を高めるための副業ということでも長岡市さんのほうでもさまざまな取り組みをされておられますけれども、そういったものに取り組みながら1番の若者の魅力の中でありましたけれども、長岡での魅力を高める、そういった取り組みをさらに進めていただきたいというふうに思ひます。

また「働く」の項目の中でも、働く中でのイノベーションということで異業種の交流ということも掲げられていることでもありますけれども、そういった今働いている若者同士の交流によって企業を超えた取り組み、交流によってさまざまな働く企業にとってもプラスになることが多くあるんじゃないかなと思ひます。今取り組みをされておりますけれども、そういったものをさらに進めていただきたいというふうに思っています。

さらにそういった時間があるという中で、併せて年次休暇についてですけれども、取得率が全国は大体50%程度ですが、新潟県は40%ということで、10ポイント低いというところでもあります。連合としてもこういった年休の取得率の向上というところも求めていきたいと思ひますし、そういったことを積極的に使って地域の発展につながる、そういった取り組みを長岡市さんとしてもまた取り組んでもらえるとうれしいんじゃないかなというふうに思ひます。

あとは「子育て」の関係につきましても、地域の力で子育ての力を上げていくということでもさらに前に進めていくといった中身になってございますけれども、ぜひそういったところでの推進をお願いした

<p>事務局・政策企画課 課長補佐</p>	<p>と思います。長岡市さんの子育て政策は本当にさまざまな面で素晴らしいと思いますけれども、まだまだ地域の中で子育てをしていく、そういった動きはこれからだというふうに思います。</p> <p>そういった中で今子ども食堂とかそういった形で地域での自主的な取り組みが徐々に増えているかと思しますので、そういった点を行政としても応援をお願いしたいと思しますし、また企業の皆さんからもそういうところにもご支援いただければ地域での子育ての力を上げていく大きな力につながるんじゃないかと思します。そういったことを地道に積み重ねていくことで魅力ある子育てしやすい長岡市につながるんじゃないかというふうに思っていますので、さらに推進いただければというふうに思します。よろしくお願ひします。</p> <p>ありがとうございました。皆さま方から頂戴いたしました貴重なご意見を踏まえて、今後策定に取り組んでまいりたいと思します。議事としては以上で終了となります。</p> <p>それでは、そのほかといたしまして、今後の策定スケジュールにつきまして政策企画課の大矢よりご説明いたします。</p>
<p>事務局・政策企画課長</p>	<p>資料はございませんので、口頭で失礼いたします。国の戦略のほうは、閣議決定がされました。その内容を勘案して成案をとりまとめていきたいと思っております。</p> <p>今後ですけれども、1月の下旬ころになりますが、まずは市議会のほうで説明をさせていただいて、その後になりますけれども、市民の皆さまからご意見をいただきたいということでパブリックコメントを予定しております。それらを経まして今年度中に総合戦略を策定する予定で進めさせていただければと思っております。</p> <p>それから、最終段階になりますけれども、策定に当たりましては、市長、それから学長さま、金融機関さんのほうはトップレベルの第2回目の地方創生推進会議というものを開催させていただきまして正式に決定をさせていただきたいと考えております。それらの日程につきましては改めてご案内をさせていただきますけれども、おおむね2月下旬から3月上旬ころに開催したいと考えておりますので、引き続きご協力をよろしくお願ひいたします。</p> <p>私からは以上になります。</p>

<p>事務局・政策企画 課 課長補佐</p>	<p>ただ今の今後のスケジュールについて、ご質問等がございますでしょうか。</p> <p>(質問なし)</p> <p>それでは、以上で終了とさせていただきたいと思います。本日予定していた議事はこれで終了となります。</p> <p>本日は貴重なご意見をいただきまして、大変ありがとうございました。これをもちまして、令和元年度第2回長岡市地方創生推進会議幹事会を閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。</p>
<p>9 会議資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 議事次第・出席者名簿・配席図 ○ 資料1 人口ビジョンについて ○ 資料2 次期長岡版総合戦略について(案) ○ 総合戦略編 ○ まち・ひと・しごと創生長期ビジョン(令和元年改訂版)及び第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(概要) 	